

会 議 議 事 録 (要旨)

1 会議名	平成 30 年度 第 1 回長岡市地域公共交通協議会
2 開催日時	平成 30 年 7 月 25 日(水曜日) 午前 10 時 00 分から午前 12 時 00 分まで
3 開催場所	フェニックス大手イースト まちなかキャンパス 3 階 301 会議室
4 出席者名	<p>大塚会長、佐野副会長、丸山委員(代理:中山様)、高橋委員、鈴木委員、井藤委員(代理:関本様)、関谷委員、真島委員(代理:本間様)、小山委員(代理:谷畑様)、小林加津春委員、中林委員、小林守委員、焼田委員、中山委員、山本委員</p> <p>【欠席】三本委員</p> <p>【随行者】</p> <p>越後交通乗合バス課 相場 浩司</p> <p>新潟県警察本部 交通部 交通規制課 荒井 智</p> <p>国土交通省 北陸信越運輸局 新潟運輸支局 種山 大地</p> <p>【事務局】</p> <p>山本交通政策課長 外 3 名</p>
5 議決事項	<p>(1) 平成 29 年度事業報告及び平成 29 年度歳入歳出決算報告</p> <p>(2) 長岡市地域交通協議会規約の改正について</p>
6 協議事項	<p>(1) 生活交通の利用状況</p> <p>(2) 「なかのん号」アンケート</p> <p>(3) 平成 30 年度事業内容</p> <p>(4) 平成 30 年度交通関連事業</p>
7 協議結果の概要	・議題(1)～(2)について承認された。
8 次回の予定	次回(第 2 回)の協議会は 2 月頃を予定
9 審議の内容	
<p>【その他】</p> <p>事務局</p>	<p>委員の交代について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越後交通(株)の天野委員が丸山委員と交代。 ・長岡国道事務所の松本委員が焼田委員と交代。 ・北陸信越運輸局の高橋委員が井藤委員と交代。 ・北陸信越運輸局新潟支局の小松委員が関谷委員と交代。 ・長岡地域振興局地域整備部の波塚委員が小林加津春委員と交代。 ・東日本旅客鉄道株式会社新潟支社の石塚委員が三本委員と交代。
<p>【議決事項】</p> <p>事務局</p>	<p>(1) 平成 29 年度事業報告及び平成 29 年度歳入歳出決算報告</p> <p>資料 P1～P5 に基づき、議決事項(1)を説明。</p>

事務局	P3 事業の報告の長岡地域では中央循環 5 便、宮内・川崎環状線 6 便を減便しました。 小国地域では大貝線 20 本を 18 本に 2 便、減便しました。 山古志地域・太田地区では 4 本を減便しました。
委員	・ P5 会計監査を行い、歳入・歳出に関する帳簿並びに書類等は、いずれも適正に処理されていたことを確認した。 (質疑応答なし)
会長	・ 議決事項(1)を承認してよいか。 (承認された)
【議決事項】	(2) 長岡市地域交通協議会規約の改正
事務局	資料 P6～P10 に基づき、議決事項(2)を説明。 (質疑応答なし)
会長	・ 議題(2)を承認してよいか。 (承認された)
【協議事項】	(1) 生活交通の利用状況
事務局	資料に基づき、各地域の利用状況について説明。 (以下、質疑応答)
委員	・ 小国地域の生活交通の利用者減少要因として、今年度はスクールバスが別途導入されたことを挙げているが、過去 5 年間の推移をみると毎年利用者が減少している。これらの要因もスクールバスの導入の影響によるものなのか。また、バスの利用者の年齢層と主な目的地は何か。
事務局	・ 利用者数の減少の要因として、免許証を返納した方などが新たに利用を始めることはあるものの、これまで利用していた高齢者が施設に入るなどして、利用しなくなってしまった方の数がそれ以上に多くいるため減少したことが考えられる。また、主な目的地は、地域内の商業施設や診療所などである。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内に高齢者が集まって楽しむような場所はないのか。また、小国の高齢者はこのような外出をすることはほとんど無いのか。 ・今後の見直し方針として具体的な方針はあるのか。また、大貝線の車両を小型にすることは検討しているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・八王子等には集まる場所はあるが、そこへ生活交通を利用して行く方がいるかは把握できていない。今後確認したいと思う。 ・外出について、元気な方は自家用車やバスで小千谷市へ行くことが多いと聞いている。 ・見直し方針については、現在小国地域だけでなく、他の地域も含めて乗降調査を実施している。その結果から、例えば大貝線をデマンド化することは可能であるかなどの検証を進めていきたい。車両については、現在小型化を検討している。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは小学生が利用することがあり 29 人乗りの車両を使用していたが、スクールバスが新たに導入されたので、今ほど意見があったように、小型車両を導入することが考えられると思う。実施すれば今以上に利用者の家の近くまでバスを停めることができるようになり、利便性が向上すると考えられる。 ・高齢者が集まって楽しめる場所への足を確保することで、高齢者の方々が元気になって医療費などを抑えられれば、街全体では黒字となり公共交通が赤字になっても良いという考え方もできるため、これらの意見を踏まえて検討してもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは、人口が減っていくことを踏まえたバス交通の見直しが必要だと考えている。そのため、今後は国・県・長岡市と事業者が一体となって十分な議論をしたうえで取り組むべきことだと思う。 ・また、公共交通の効率化や利便性の向上は重要だが、万が一事故があった場合にどのように対処するかなどの安全面についても検討してもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小国地域のデマンド交通は、予約のタイミングは現状どうなっているのか。例えば 1 時間前までに予約すれば利用可能にすること等は実施できないか。住民の要望、ニーズを把握して対応することも重要ではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中の便は、前日の午後 8 時までで、午後の便は当日の正午までとしている。予約は電話予約で、システムなどの導入をしていないため、現状より短くするのは困難であると考えているが、利便性を向上する手段としては有効であると考えられるため、今後運行事業者と協議したいと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が（5 年前と比較して）50%も減少している状況だと本当にこれまでのやり方でよかったのかということも含めて検討する必要があると考えられる。

会長	<p>またスクールバスの昼間の時間を年配の方の買い物、通院等で活用して頂くというのもありかなではないか。住民の意見を聞きながら見直しを進めて欲しい。</p>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・収支率が低いなら、例えば買い物客などの人を運ぶのではなく、食料品などの物を運ぶことで輸送料を抑えることなども視野に入れてはどうか。 ・小国地域のデマンド交通は、利用者に協力してもらい、できるだけ相乗りで移動してもらうなど臨機応変な対応が必要だと考えている。 ・全国的に利用者が減ったから減便する・デマンド化するという見直しはよくある話だが、あまりうまくいかないことが多い。そのため、山古志地域の生活交通を山古志支所から長岡市中心部へ直通で行く事ができるようにするなど、大幅な見直しが必要であると考えている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今ほど委員の皆様からの意見でもあったように、生活交通の見直しは様々な選択肢があると思う。今日出た意見を参考に、見直し検討を進めて欲しい。
【協議事項】	<p>(2)「なかのん号」アンケート</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき、「なかのん号」アンケート結果と今後の方針を説明。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点の利用者数とアンケート結果から、実証実験を終了すると判断したとのことだが、どれだけ利用者がいれば導入するのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な数字は決めていないが、アンケート調査や社会実験時の利用状況から地域の実情を把握したうえで、実証実験を終了すると判断した。ただし、これからも地域委員会でバス停の距離の問題、ドアツードアをとめる、費用の負担などの議論は継続して実施していく予定である。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・数字的には実証実験を終了すると判断できるかもしれないが、それでも必要だと言う人はいるのではないか。例えば、ボランティア輸送などを導入するような手段も考えられると思う。地域の高齢化が進んでから実施するとなっては、その時に担い手がいない可能性もあるためその点については留意してもらいたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、車両の小型化を進めて地域の公共交通を維持していく必要があると思う。また、収支率については目標値を定めながら進めていく必要があると考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現状は、皆様のご存知の通り、運転手が不足している状況である。今ほど鈴木委員から意見もあったように、どこをタクシーが担い、どこをバスが担うかをしっかりと分担していく必要があると考えているため、しっかりと議論していきたい。

会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの公共交通の見直しは、現時点での人口や高齢化率などを見るだけではなく、数年後にはこの地域には年齢構成や人口はどれくらいで、高齢化率はどれくらいなのかなど、将来の社会状況の変化も踏まえた見直しが必要だと考えられる。
【協議事項】	<p>(3) 平成 30 年度事業内容について</p> <p>資料に基づき、内容を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川口・小国・山古志地域は今後も利用者減少傾向が続くため利用者数の実態に合わせた運行内容の検討、地域ニーズにあった運行計画の見直しの運行改善を図る。 ・中之島、和島、寺泊地域については中之島デマンドタクシーの実証結果を踏まえたなかで支所を中心に話し合い地域ニーズの把握に努め、地域主体の交通手段の確保、助言、指導を行う。支所を通じて公共交通について話し合いの場を形成していく。 ・中央循環くるりんについてはバス事業者と連携して乗降調査を行い運行改善を図っていく。 <p>(質疑応答なし)</p>
【協議事項】	<p>(4) 平成 29 年度交通関連事業について</p> <p>資料に基づき、内容を説明。</p> <p>(質疑応答なし)</p>
【その他】	<p>情報提供</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき、県内および長岡警察署管内の交通事故発生状況について説明。 ・資料の発生件数は人身事故の件数であり物損事故を含めるとその 10 倍以上の件数になる。7～9月の暑い時期は緊張感の欠如で漫然運転になり自損事故が多く発生する傾向がある。全体的に高齢者事故が非常に増えている。主な原因として前方不注意が毎年多く占めている。緊張感を持って運転してほしい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者協会や老人クラブなど利用者の立場で、長岡市の公共交通に関連して何か意見などを聞いているか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者協会で実施した免許返納調査では、今はまだ運転できるから返納しないという意見が多い。最寄のスーパーなどがなくなり買物難民になったり病院、サークルへの移動手段がなく引きこもりになったり将来のことを考えると自分自身も

委員	<p>含めて不安に感じているため、今後も維持するための検討をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は、人が集まるところへ行くことを楽しみにしている。しかし、そのためには移動手段が必要となる。まだ車が運転できる老人クラブのメンバーもいるので送迎をしてもらえることもあるが、その人もいつかは運転できなくなるため、今後も運行をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通のクロスセクター効果の考え方について説明。 <p>※公共交通に対して市が負担している補助金と公共交通を廃止した場合に生じる費用（医療費の増加、代替手段の導入費）を比較すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通に投資することは年寄りの引きこもりが改善され外に出て元気になり医療費を抑えることができると考えられる。
【事務局】	自動運転の実証実験について説明。
【その他】	全体意見

(以上)

■協議会の様子

